あおもり民医連

2021年11月22日発行　第296号

【6面オールカラー】発行部数2,995部

発行元／青森県民主医療機関連合会
所在地／〒030-0822 青森県青森市中央１丁目6-8　3F
TEL. 017（723）4076　　FAX. 017（773）5326
URL　http://aomin.jp/　　e-mail　info@aomin.jp

2021年度 青森県民医連
平和活動交流集会　開催

9月10日（金）、青森県民医連反核平和委員会主催「2021年度平和活動交流集会」をオンラインで開催しました。各院所・事業所・薬局等の職員、組合員も含め138名が参加しました。

前半は、日本平和委員会常任理事の川田忠明氏を講師に招き、『核兵器禁止条約を力にどう前進するか』と題して、①今そこにある核兵器の脅威②核兵器禁止条約が示す世界の変化③平和・核軍縮とジェンダー平等④禁止条約は力になる⑤被爆国・日本を変えるといった内容で、核兵器禁止条約後の国内外の情勢と、今後私たちがなすべき事について学びました。

後半は、八月に開催された原水爆禁止世界大会にオンライン参加した職員からの報告と決意表明がありました。

最後に、「今回の選挙は命や憲法をないがしろにする政治を変える絶好のチャンスであり、その選挙に行かないという事は、今の政治を認める事になる。私たちの一票一票で、命と暮らし、そして平和を大切にする政治に変えましょう。」と呼びかけました。

参加者から、条約の意義や条約後の世界情勢を学ぶことができて良かったことや、唯一の被爆国である日本の姿勢への不満などの意見が出されたほか、「平和とジェンダー平等は不可分の関係にあることを初めて知った」との言う意見や「核兵器禁止条約に署名・批准する政府をつくらなければいけない」「核のない世界をめざすためにも、禁止条約に参加する日本にし、反核運動を大きく前進させなければいけない」といった多くの感想が出された交流集会となりました。

（県連反核平和委員会　委員長／角田尚樹）

感想文で頂いた質問に対し、講師 川田 忠明 氏より解答をいただきましたのでご紹介いたします。

Q 核兵器禁止条約に署名することは、原子力発電も廃止にしていくことにつながるのでしょうか。

A 核兵器禁止条約には、原発のことは書かれていませんので、条約に参加しても、すぐに原発がなくなるわけではありません。しかし、禁止条約の先頭にたってきたオーストリアは、原発を国内で禁止しています。核の恐ろしさを知っているからです。核兵器の恐ろしさを知れば知るほど、原発に依存する危険も、もっと知られていくでしょう。

Q なぜ被爆国なのに頑なに参加を拒否し署名しないのか不思議でなりません。

A 日本が条約参加を拒んでいるのは、先日も紹介したように、アメリカの「核の傘」で守ってもらうという立場をとっているからです。いざとなったら、核兵器をつかっても良いと考えるのは、核兵器の恐ろしさをよく分かっていないからです。他国にヒロシマ・ナガサキを体験させても良いなどという考えは、けっして許されません。さらに、日米安保条約のもとで、「アメリカに守ってもらう」という考えが染みついていて、アメリカのいいなりになっていることが、おおもとにあると思います。

県連初期1年目研修

各法人学習の様子～八戸医療生協～

コロナ禍により、一年目研修はオンラインでの説明、自己学習による開催となりました。民医連について何もわからない状態からの自己学習ということで、新入職員のモチベーションは大丈夫かと心配しましたが、各自、学習ブックレットを真剣に読み、大事なところに付箋を付けるなど、居眠りもせずそれなりに意欲的に行えていたようです。

私が入職した時は、泊りがけで初年度研修を行いました。民医連のことなど、全く訳の分からない状態で参加していましたが、座学の他、大勢の仲間とレクリエーションや夜の親睦会など、ワクワクする要素がたくさんあり、楽しみながら研修することが出来ました。企画した研修担当の方々には今更ながら感謝です。あの頃を思い出すと、現状は不憫で仕方ありません。

早く事態が収束し、再び以前のように直接職員が集える研修になることを心より願います。同世代が意見交換しながら、連帯感や親睦を深める機会はとても素晴らしいことであると、改めて思う昨今です。

（八戸生協診療所　通所・訪問リハビリテーション／長根光司）

自己学習の様子

2021年度 薬剤師二年目研修開催

9月25日（土）オンラインで県連薬剤師委員会主催　薬剤師二年目研修を開催しました。昨年度開催できなかったので、今年度は三年目薬剤師も含め12名が参加しました。

はじめのアイスブレイクでは自分の性格や特徴を動植物に例えた自己紹介を行いました。動物占いや心理テストの自分の結果を紹介する方がいて、終始和やかな雰囲気で交流できました。

講義はあおもり協立病院の臺丸谷さんが講師となり、事前課題を用いて参加者に回答してもらいながら、論文を読み解くための基礎を学習しました。ディスカッションは２グループに分かれ、症例のPECOと論文の解釈について二年目三年目の垣根を越えて、自分の経験を踏まえつつ様々な意見を出し合うことができました。オンラインでの講義とディスカッションとなり各々苦戦する部分もありましたが、全員の協力により、目立ったトラブルもなく有意義な学習の時間となりました。今後も引き続き患者により良い医療を提供するために、今回学んだことを実務に活かして欲しいと思います。

（藤代健生病院　薬局／佐藤賀奈子）

参加者の感想（一部抜粋）

- 入社後、論文をじっくり読む機会がなかったため、久しぶりの統計学の用語を聞き、初めは懐かしさに加えて難しさを感じていました。しかし、講義がとてもわかりやすく、大学時代には学ばなかった論文を読む際のコツを教えていただき、とてもためになった研修会でした。今後、論文を読む機会があったら、今回学んだことを活かしたいと思いました。
- 普段面識の無い、自分と経験年数が近いメンバーが、各々のフィールドで真摯に仕事に向き合っている様子が垣間見れ、今後の日々の業務の励みになりました。
- 今まで、他所属の同期の方とは何度かZoomで交流があったが、先輩方とは交流がなかったのでとても新鮮でした。今回の研修で、やはり一年上の先輩方は、話も上手く、自分にはない視点で物事を見ているなと、とても刺激になりました。
- エビデンスを得るのに論文のどこを読めば必要な情報が手に入るのか、また図の見方などを詳しく知ることができました。また、講義前に論文を読んで自分がやってみた情報の探し方と講師の情報の見つけ方が違いとても勉強になりました。

2021年度 ～民医連綱領を実践できる看護管理者の育成をめざして～

第55期青森民医連看護管理者研修

県連看護委員会では期に一度、看護管理研修を行っており今回で８回目になります。今年は10月８日午後と９日午前に分けて開催し、32名の主任・看護長が参加しました。

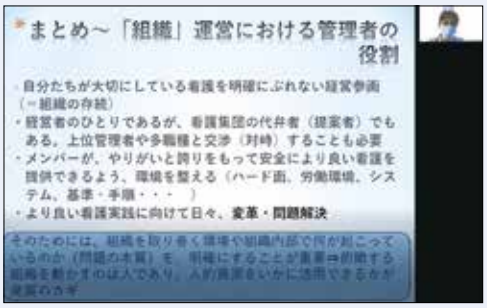
２日間にわたる研修プログラムでは、第１講座を公開講座とし、医療生協さいたまの理事長である雪田慎二氏を招き「障がい者差別の問題を通して社会を診る」について講演いただきました。障がい者差別の基にある優性思想と、基本的人権の対立は歴史的に繰り返されてきたこと。差別思想は人々を分断する、事実をエビデンスに基づいて理解すること。心の感度を上げるよう継続して考えることなどを学びました。

第２講座は人材育成と組織運営など看護管理の基礎知識を、第３講座では時代の社会情勢を民医連活動と合わせて学び、民医連綱領が実践されてきたことを改めて確認しました。これらの学習の後「管理者としての人権と倫理的課題」のテーマでGWを行いました。

今回は全講座Zoomでの研修となりましたが、オンラインの研修にもだいぶ慣れ、GWも盛り上がり満足度の高い研修となりました。

（県連看護委員会　委員長／奈良原　恵）

講師　医療生協さいたま
理事長 雪田慎二 氏



初のオンライン 高校生一日薬剤師体験会 開催

十月二日に弘前会場、九日に青森会場でオンラインでの高校生一日薬剤師体験会を開催しました。弘前会場には弘前市・木造町・五所川原市の高校から三十一名、青森会場には青森市・八戸市の高校から四十三名の申し込みがあり、共に最高人数となりました。

10/2弘前会場の様子

弘前会場では健生病院とファルマ弘前薬局、青森会場ではあおもり協立病院と大野あけぼの薬局の「薬剤・医療活動の紹介と解説」を県連薬学生小委員が行いました。

各会場では、薬剤師が模擬服薬指導の寸劇や動画を用いたりクイズを取り入れたりと、参加した高校生がより興味を持つように工夫を凝らしていました。それに対して高校生もリアクションボタンで反応したり画面越しにジェスチャーで意思表示をしてくれたりと和気あいあいとした雰囲気で進められました。医療活動紹介ではコロナ禍での対応についても紹介され、「ワクチンの希釈作業を薬剤師が行っていることを知って驚いた、知れてよかった」という感想がありました。

また、参加した高校生から多くの質問が寄せられ、時間内に答えきれない程でした。薬学奨学生も参加してくれており、勉強に対する質問に答えてくれました。

高校生の感想では、薬局の中だけで仕事をすると思っていたが在宅訪問など外に出る仕事が知れた、薬局薬剤師と病院薬剤師の仕事は違うことが分かった等の薬局や薬剤師業務に関する事のほか、勉強を頑張ろうという声もあり、薬剤師を目指す目指さないに関わらず前向きな気持ちになってくれたことを嬉しく思います。（あけぼの薬局八戸店／岩本るり子）

10/9青森会場の様子

★★★全日本民医連★★★ 事務育成活動交流集会

９月29日（水）に全日本民医連事務育成活動交流集会がWebで開催されました。当日は青森民医連から県連、法人の事務委員を中心に10名が参加し、全体でも全県連から300名を超える参加者があり、関心の高さが伺えました。

学習講演では、副会長の山本一視先生から「育成指針案と民医連事務養成」について講演いただきました。育成指針案は目を通していて理想が高く自分自身に当てはめて実現できるのかと疑問に思っていた部分も、改めて山本先生の講演を聞いてスッと腑に落ちた内容の講演でした。また、民医連医師の皆様の事務職員に向ける熱い想いを感じられる講演でした。

指定報告として４県連から報告がありましたが、どこも事務育成にマニュアルや正解がない中、様々な模索をしながら事務育成に一歩を踏み出しているという印象をもちました。当県連でも現在事務政策の見直しを行っておりますが、政策づくりが目的ではなく、それをもとにした育成が重要になってくると考えています。

今回はSGDが機器の関係でうまく開催できず、取組みの交流がうまくできませんでしたが、県連だけではなく法人の事務育成に向けて第一歩を踏み出していければと思える交流集会でした。

（生協さくら病院　次長／秋山和範）

第44期全日本民医連

人権としての社会保障セミナー

～第一回、第二回の参加報告～

社保セミナーは二〇二一年六月～十二月の間に全四日間で開催します。第一回目を六月十四日（月）、第二回目を八月三十一（火）、オンラインにて開催しました。

第一回社保セミナーでは藤田孝典氏（ＮＰＯ法人ほっとプラス代表理事）による「貧困・格差はどのようにつくられるのか？」のご講演と、ＮＨＫクローズアップ現代を視聴し、メディカルプア、貧困と格差に立ち向かう民医連事業所の実践について学習しました。藤田氏の講演で最も印象的だったのは「貧困は社会構造的に生み出されている。自己責任ではない。」という言葉です。国民の貧困世帯は、政府が非正規労働者を増やしてきた結果、コロナ禍でさらに広がりました。藤田氏は、この間のコロナ対応により「医療従事者の発言力が高まっている」と言います。私たち医療従事者は、現場で起こっていることをしっかりと政府に訴えていくことが必要です。

第二回社保セミナーでは鈴木静氏（愛媛大学教授）による「国際動向をふまえた人権保障システムを確立」についてのご講演と、日本民医連副会長の柳沢深志医師より、「民医連と社会保障運動、民医連の医療・介護の二つの柱、ＳＤＨを学ぶ」についてのご講演を頂きました。これまでの社保セミナーで人権としての社会保障と無差別平等の医療・福祉について学び、人権と社会保障のアンテナをより高めたいと思いました。第四回まで引き続き学習を深めていきます。（青森民医連／葛西美冴）

オンライン医療講演会 開催

十月二十三日（土）、青森保健生協としては初めてのＺｏｏｍを利用した六会場をつなぐオンライン医療講演会を開催しました。

あおもり協立病院
相馬　裕 院長

新型コロナウイルス感染症の流行が収束しない中、二〇二〇年度は支部主催の行事や班会、医療講演会等の多くが中止・延期を余儀なくされました。二〇二一年度も職員の班会などへの派遣は引き続き困難な状況となっている中、青森保健生協では新たな試みとして、Ｚｏｏｍなどを利用したオンラインでの班会や医療講演会を開催してきました。

今回はその中でも青森市内六会場並びに個人視聴で総勢九十二名の参加者が集いました。講師にあおもり協立病院院長相馬裕医師を迎え、「今日までそして明日から～あおもり協立病院院長として思うこと」をテーマに開催されました。具体的なリウマチ科に関する病気・症状などの医療に関することだけではなく、相馬院長が民医連だからできることなど熱い思いを伝えました。

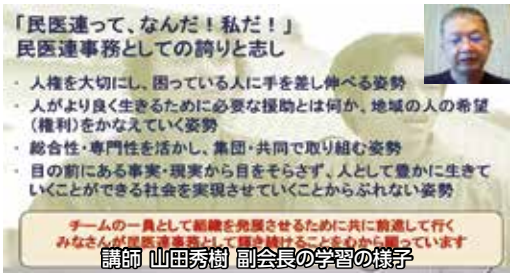
会場の様子

複数会場をオンラインでつなぐという試みは初めてのことでしたので、講演開始直後は通信のトラブルが多少生じましたが、参加した皆さんからは「高齢者ももう少し頑張らなければ！と元気づけられました」、「オンライン学習もいいですね！」などの感想を得られました。今後もできないではなく、今だからこそできることを組合員の皆さんと探求していきたいと思っています。（青森保健生協組織部／青山美奈子）

会場の様子

連載 第44期 北海道・東北地協事務幹部学校 参加報告

事務幹部学校には県連別で北海道から８名、青森３名、岩手３名、宮城６名、山形５名、福島15名の計40名が参加しています。



日程は全部で４クールあり、第１：2021年６月15日（火）～16日（水）、第２：８月26日（木）～27日（金）、第３：11月25日（木）～26日（金）、第４：2022年２月15日（火）～16日（水）で、フォロー研修が2022年春に予定されています。

内容は民医連の歴史と綱領に触れるところからスタートし、哲学や科学的な観点を踏まえながらのものの見方・考え方、医療・介護の２つの柱への実践、経営について（統一会計基準、財務諸表の見方）等と多岐に渡っています。“学校”と名のつくだけに事前・事後課題があり、働きながら大学に通っている感覚に陥ります。

参加者は尊敬出来る方ばかりで、一緒に学ばせてもらえることが光栄でなりません。濃厚な研修で中々ハードではありますが、残すところあと２クール、終了する頃には一回り成長出来そうな予感がします（!?）

（社福虹　ショートステイ虹の郷／木村玉代）

二〇二一年 北海道・東北地協
オンライン薬学生のつどい
薬害と新型コロナウイルス感染症から考えられる薬剤師の役割

九月十八日（土）北海道・東北地協薬学生夏のつどいが初のオンラインで開催され、薬学生・職員合わせて四十五名（内、青森県連薬学生四名）が参加しました。

講演の様子

今回は二つの学習企画がありました。一つ目は「薬害のはなし」と題し、株式会社北海道保健企画　代表取締役　野村充代氏より「薬害」について教えていただきました。続いて「HPVワクチン被害者からのメッセージ」として宮森未琴さんより被害者としての貴重なお話を聞かせていただきました。

次の学習企画は、新型コロナウイルス感染症薬局クラスターを経験された、有限会社函館保健企画　代表取締役　多田勘司氏より、どのような状況でクラスターが起こり、その後会社としてどのような対策を取ったのかについて、教えていただきました。

お昼休憩では、Ｚｏｏｍを活用して交流企画で仲を深めました。交流会では私は司会を担当しましたが、対面とはまた違ったＺｏｏｍでの司会進行の難しさを感じつつも楽しんでもらえたように思います。参加者の笑顔が見られ、各々の性格が垣間見えた交流になりました。

最後ＳＧＤでは、「ＳＮＳをはじめとした情報化社会に求められる薬剤師としての情報リテラシー」をテーマに、情報の有効利用方と表裏一体の危険性、そして情報の取捨選択基準など、あらゆる観点から患者への情報提供を薬剤師として適切に提供するにはどうすればよいのかについて話し合いました。今回チューターとしてＳＮＳを利用する際に気を付けていること、コロナワクチンに対する社会の様々な反応、雑誌の医療記事、患者さんから相談を受けた時の説明の仕方など、話し合いのきっかけを作りながら意見を引き出すことが出来ました。参加者からは、「情報元を辿って、信頼できる情報か判断する」「患者さんの話を聴くときは否定から入らない。話を聴いてから他の選択肢を提案していく」などの意見が出されたことが印象的でした。

（ファルマ弘前薬局／髙橋沙衿）

二〇二一年度 医系合同奨学生会議 開催
コロナ禍での青森県民医連の医療活動と地域貢献について～事例から学ぶこと～

十月三十日（土）二年振りとなる医系合同奨学生会議をオンラインにて開催し、医学生四名、薬学生二名、看護学生十二名、職員十一名の計二十九名が参加しました。

学習は、講師に青森民主医療機関連合会会長 田代　実先生を招き、弘前保健所管内の新型コロナ感染の推移や健生病院・クリニックの取り組み、職員に対してのメンタルヘルスケアや奮闘した職員への敬意の思い、ＰＣＲ検査等による地域貢献や保健所との連携が深まったこと、地域住民から激励や感謝が多く届けられたことについてお話しいただきました。また奨学生に対し「**皆さんがやがて私たちの仲間として入職されることを心から待っています。それまで健康に十分留意して**」とエールが贈られました。

事例報告では、ファルマ弘前薬局 村上薬剤師より、薬局の利用者・職員への安全に配慮した柔軟な取り組みや、コロナ禍で仕事を失い薬代が払えず滞納となっている事例が増えていることなどについて、あおもり協立病院 三井主任より「抗原検査陽性で発熱のある患者がかかりつけ医に診察を断られた事例」「父の入院費が払えないとの理由から親子でひきこもりライフラインが止められ脱水症で入院、多職種で関わり退院に至った事例」の二事例について、健生病院緩和ケア病棟の高橋看護長より、面会制限による患者さんと家族の影響、死を目前にした患者さん・家族の希望に寄り添い、面会を可能にするために何度も討議し職員で奮闘した経過が話され、奨学生全員が興味深くメモを取りながら聞き、その後のＳＧＤでも質問が多く出るほど活発な意見交換を行うことができました。

当日の様子

閉会の挨拶では、衆議院選挙投票日前日ということもあり、医学生から不在者投票に行った報告があり、県連会長より学生一人一人が選挙で投票することの大切さを訴えて終了した。（青森保健生協本部看護学生担当／須藤千夏）

あおもり民医連 296号 発行日 2021.11.22 発行部数 2,995 枚 AOMORI MIN-IREN

うちのメゴっこ vol.64

name フクロモモンガ「チップ（メス）」

age 4ヵ月

寝ている様子

８月25日、我が家に家族が増えました。フクロモモンガの「チップ」です。

ニホンモモンガはリスの仲間ですが、フクロモモンガはコアラやカンガルーの仲間です。うちのチップはメスなのでお腹に赤ちゃんを育てる為の袋があります。まわりに飼っている人がいないので、日々、チップの様子をみながら試行錯誤を重ねています。

最初は、威嚇の声（ギーギー）ばかりでしたが、最近は減り、少しずつ慣れてきています。（大野あけぼの薬局／杉山みどり）

私の三つ星★★★

オススメ　～おうち時間ver.～

「あわあわ♪おふろ♪♪」

私　「あわあわおふろ、はいるひとー！」
２人「「はーーーーーい！！！！！」」
日が暮れるのも早く、お外遊びもままならずに体力の有り余る４歳・２歳男児との我が家のおうち時間は、泡風呂にハマっています。キャッキャと笑顔で遊ぶこどもたちとはいるお風呂は、かけがえのない幸せな時間だなぁ…と。こどもの笑顔が親の笑顔になり、親の笑顔がこどもの笑顔となりますね。なんてことないことなのですが、日々感じています。

泡風呂だと、お風呂へ猛ダッシュのためスムーズに夜の時間がすすむのもまたうれしいのです(^_-)-☆(重要) 寒くなってきたので、みなさんもお風呂でリラックスする時間を取れると良いですね♪(津軽保健生協総務部／濱中奈留)

泡風呂を楽しんでいる様子です

11月 2021年11月 第19回理事会報告

- >> 全日本民医連理事会報告
- >> 決裁事項
  - 看護奨学生申請
  - 2021年度薬剤師一年目研修
- >> 協議事項
  - １月理事会・常任理事会　日程変更の提案
  - 総選挙の取り組みについて
  - 上半期決算報告
  - 新型コロナウイルス対応について　など
- >> 各種委員会
  - 政治と社会に関する問題意識アンケート
  - 事務職員アンケート
  - 各種委員会報告・署名到達
- >> 報告事項
  - 全日本民医連　通達・声明
  - #いのちまもる　医療・社会保障を立て直せ！ 10.14総行動参加のよびかけ
  - 秋の看護介護ウエーブの取り組みについて　など
- >> 会務報告/各委員会・医師委員会報告

●第295号紙面の訂正とお詫び●

本紙295号５面に記載の青森県社会保障推進協議会の記事に誤りがありました。

タイトルの「**青森県社会保証推進協議会**」は、正しくは「**青森県社会保障推進協議会**」、「**第23回定期総会**」は、正しくは「**第25回定期総会**」です。訂正してお詫びいたします。